

Vories
cure&care

病院ホームページアドレス
http://www.vories.or.jp/



ヴォーリス
だより

2013年(平成25年)7月1日 第73号

発行 毎月 1日
発行者
ヴォーリス記念病院
周 防 正 史
近江八幡市北之庄町492
TEL (0748) 32-5211
印刷
(有)東呉竹堂(ひがし印刷)

平成24年度事業報告～そして新たな飛躍～



事務長 澤 谷 久 枝

先日6月11日に、リハビリ新棟起工式ならびに、決算理事会が開催されました。中長期計画に掲げていた、総合リハビリセンター構想の実現に向けて、いよいよコマを進める運びとなりました。地域の皆さま、理事・評議員様のご支援そして職員の理解と結集のお陰と、心から感謝しています。建物の中には、総合リハビリセンター・在宅サービス部門・院内託児所を設置します。また、新たな病棟編成も含めた3階建てとなり、屋上は緑地を活かした遊歩道となる予定です。本館2階、3階とブリッジで繋ぐ大がかりな工事となります。工事期間中は何かとご迷惑をお掛けするかとと思いますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、平成24年度の決算が整い、理事会・評議員会で承認を得ることができました。また、今年度は理事改選の年であり、新たな役員でスタートを切らせて頂いています。

経営状況では、前年度対比で、医業収入は、80,941千円増、医業費用は、50,892千円減となり、医業収支差は、131,833千円の増、医業外収支差は、951千円増となり、経常収支差額133,332千円増の黒字決算に加え、老健センター・在宅サービス部門の安定した運営で予算達成が出来ました。全体的に、予算達成に対する収入の追求と、支出面では特に、人件費に関わる業務効率と労働分配率のバランスが問われる年度でありました。上よりのお導きと、全職員の英知と協力で得た果実を、公益事業発展のために投資させて頂きたいと考えています。

平成25年度は、地域医療再生計画最終の年度となり、ITネットワークの先駆体として電子カルテ等による医療機関どうしの情報化が進むこととなり、更に地域連携が深化することが、予想されます。ケアミックス病院に求められる機能として、一つは、急性期病院が平均在院日数の短縮化で病床回転率を高めるのに伴う受け皿機能の強化。早期に患者さんを受け入れ、早期に在宅復帰させる「高度慢性期医療」の必要性。二つ目は、在宅や介護保険施設の急性増悪患者さんの受け入れを担う在宅後方支援機能。三つ目は、高齢で完治が難しい疾病を持つ患者さんの長期療養を担う機能と言えます。今後の環境変化を見据えた上で、求められるのは、診療・リハビリ・介護の技術力です。もうひとつは、患者さんの心に寄り添う医療の提供力です。複数の疾患を抱え、その中には完治しない疾患を持つ高齢者の方も少なくありません。「治す医療」だけでなく、患者の生活の質に配慮した「支える医療」の提供が必須と言えましょう。メンタルケア・生活サポート・ターミナルケアなど、この里で展開される医療・看護・介護のひとつひとつを醸成させるべく、95歳の誕生日を迎えたこの事業を、地域の皆さまとともに、職員一丸となって邁進する所存です。今後とも、ご指導賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

感謝

**敷地内全面禁煙です。
皆様のご理解とご協力をお願いいたします。**

食中毒多発時期を乗り切るために！家庭内食中毒を防ごう

管理栄養士 田中愛子



食中毒の発生件数は、毎年6月頃から増えはじめます。ご家庭でも本格的な発生シーズンに備え予防対策を行いましょう。食中毒は、その原因となる細菌やウイルスが食べ物に付着し、体内へ進入することによって発生します。食中毒を防ぐためには、細菌などを食べ物に「つけない」、食べ物に付着した細菌を「増やさない」、「やっつける（殺菌する）」という3つのことが原則となります。

まずは「つけない」という点では、手を洗う！！ことです。調理を始める前・生の肉や魚、卵などを取り扱った後・食卓につく前は必ず石鹸を使って指の間や手首も忘れずに洗って下さい。

「増やさない」為には低温で保存する！！ことです。細菌の多くは高温多湿な環境で増殖が活発になりますが、10℃

以下では増殖がゆっくりとなり、-15℃以下では増殖が停止します。冷蔵庫に入れても、細菌はゆっくりと増殖しますので、冷蔵庫を過信せず、早めに食べるようにしましょう。

次に「やっつける」には加熱処理！！が大切です。ほとんどの細菌やウイルスは加熱によって死滅します。特に肉料理は中心までよく加熱することが大切です。

ふきんやまな板、包丁などの調理器具も洗剤でよく洗ってから、熱湯をかけて殺菌し付着した菌をやっつけましょう！！

細菌やウイルスは目に見えないため、どこにいるかわかりませんが、私たちの周りの至るところに存在していると考え「つけない」「増やさない」「やっつける（殺菌する）」という“食中毒3原則”をしっかり守り楽しい夏を過ごしたいものです。

在宅サービス部門だより

「健康づくり」一緒にしませんか？

ホームヘルパーステーションヴォーリズ 生駒茂美



在宅サービス部門では、介護予防拠点事業としての活動をしています。

内容は、週1回（毎週月曜日）のゴムバンド体操、月1回（毎月第2木曜日）のうたごえサロン、年6回（近江八幡市広報等で案内あり）の介護予防教室があります。地域の60歳以上の方の健康づくりの場として、いろいろな情報を提供しています。私自身もまた、このような活動のお手伝いをするにあたって、人生の大先輩である方々にいろいろな事を教えていただいたり、お話をさせてい

ただいたり、たくさんの事を得る場として大変喜んでおります。

共に地域で活動することで、個人が元気になり「まちづくり」「地域づくり」につながる事業でありたいと思っています。

関心のある方は、是非一度、のぞいていただければ幸いです。

本紙最終面の近江八幡市介護予防拠点事業の案内をご覧ください。



リハビリ体操シリーズ第2弾

簡単にできる身体のコンディショニング

首や肩周辺が凝り固まってつらい思いをしている方はたくさんおられます。このような症状がある方は緩和に、そうでない方は予防としてわずかな時間で出来るエクササイズを紹介します。

肩や首まわり血行促進をうながす体操

○後ろから見た動き
肩を引き上げます



○横からみた動き



耳たぶ方向へ 頬の方向へ 後頭部の方向へ

それぞれ3回ずつ肩を引き上げます。最上部で1秒静止します。

左記の体操が終わったら20秒～30秒首や肩まわりが伸びていることを意識しながら左右共にストレッチを行ないます。



*全ての体操は関節の可動域に制限があったり、痛みがある場合は無理をせず行なってください。

5月25日(土)、第95回ヴォーリズ記念病院開院記念式が開催され、記念式典とともに永年勤続者表彰(5年17名・10年10名・20年2名)が行われました。おめでとうございます。

今月号は開院記念式典で安部チャプレンから語られた説教(メッセージ)と表彰を受けられた永年勤続者を代表して3名の方々に感想を執筆していただきました。

神の言葉が土台

チャプレン 安部 勉



「わたしを『主よ、主よ』と呼びながら、なぜわたしの言うことを行わないのか。わたしのもとに来て、わたしの言葉を聞き、それを行う人が皆、どんな人に似ているかを示そう。それは地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を置いて家を建てた人に似ている。洪水になって川の水がその家に押し寄せたが、しっかり建ててあったので、揺り動かすことができなかった。しかし、聞いても行わない者は、土台なしで地面に家を建てた人に似ている。川の水が押し寄せると、家はたちまち倒れ、その壊れ方がひどかった。」

ルカによる福音書第6章46節～49節

病院開設95年の記念の日、改めて開院の日を思い起こします。その日、スタッフは開設の日をどのような思いで迎えたことでしょうか。「近江療養院」として結核患者を受け入れることは他の疾病と違い、医療者一人一人、深い「思い」と「使命」そして理想を思い描きつつ、最初の患者さんを迎えたことでしょうか。

以来、当院はその形態や役割は変わりましたが、職員だけでなく多くの方の「ヴォーリズ記念病院」への深い「思い」をもって今日まで役割を果たし、支えられて今に至ったことを思います。

昨日は、園芸ボランティアの皆さんの活動日で、礼拝堂のプランターのお世話を下さっている方が言われました。「明日、催し物があると聞きました。それに合わせてお花を植え替えたいと思って」と。

多忙な業務の日々に当日が「記念日」であることを忘れ

てしまうことも無理のないことかもしれません。でも、私はボランティアの方がこの日を心に留めてお花を通して祝福してくださる思いに心暖かくなりました。

きっと当院はこのように皆さんから「支えられている」「思われている」からこそ今日までその働きをこの地で為すことができたのでしょう。誇ることも有名になることも、ましてや讃えられることを求めているのではない小さな一人一人の思いや働き、支えによって今日のヴォーリズ記念病院があるのです。

聖書の御言葉は信仰を「建物の土台」に譬えています。当院は95年前、礼拝堂の前にあるツッカーハウスから始まりました。今あるその姿は私たちの「思い」や「姿勢」が現れています。しかし、その土台はしっかりと据えられている。それはヴォーリズの建築理念であり、もちろん病院の理念の土台である「信仰」を象徴するものです。

私たちの働きがこれから目に見える成功や規模の拡大、立派な施設を設けたとしても「土台」となる信仰を見失うならば、イエスの言葉のように脆く朽ち去るものでしょう。

しかし「信仰」という土台のうえにあることを自覚するならば、小さな働き、弱い働き、目立たない働き、そして「祈り」によって私たちの働きが主に守られることを願うならば、主はきっと私たちに豊かな祝福を注がれると信じます。

開設を記念するこの日、改めて「信仰」という土台のうえにある働きに神より招かれ、祝福を受けるものであるとの自覚を新たにいたしましょう。

5年勤続表彰を受けて

庶務課 中西 敦史



5月25日、開院記念式にて5年勤続表彰をしていただきました。誠に、ありがとうございました。5年という長い期間、仕事を続けることができたのは、周りの方々の支えがあったからだ強く感じております。

私は、当初介護福祉士として入社し、3病棟・2病棟で働かせていただきました。学生時代に思い描いていた介護のようにはなかなかいかず、毎日の業務に必死でした。その中でも、患者様の笑顔や「ありがとう。」の言葉に何度も救われ、やりがいを持ち仕事に取り組むことができました。その後、自身の体調不良により休職という形になりましたが、病院・家族・友人をはじめとする周りの方々の支えや励ましにより、庶務課の一員として仕事に復帰することができました。本当に、感謝しております。介護の現場とは異なり、初めての業務の毎日に戸惑いや不安だらけでしたが、課内

の諸先輩方をはじめ、現場スタッフの皆様からのご指導をいただき、再スタートを切ることができました。現在は、主にSPD(医療材料・一般材料・消耗品等の受注管理)業務を担当しております。SPD業務は、現場をサポートする役割を担っているため、現場がスムーズに仕事ができるよう少しでも力になればと思っております。まだまだ、至らない点も多いかと思っておりますので課内・現場スタッフの皆さん、ご指導よろしくお願ひいたします。

最後になりますが、私にとってこの5年間は、周りの方々の支えの有難みを改めて知ると同時に、「感謝、感謝」の5年間でした。これからも周りの方々に感謝の気持ちを忘れず、また、反対に周りから感謝して貰えるような“人”を目指し、少しでも病院の力になれるよう日々の仕事に取り組んでいきます。

10年表彰を受けて

放射線科 川嶋 勇次



この度、10年表彰を頂きありがとうございます。
ヴォーリズ記念病院で勤務して10年、そして診療放射線技師として働き出して20年の節目の年となりました。
私の学生だったころが、丁度アナログからデジタルへと変わる初期の時代で、従来X線写真は、フィルムを現像機に通すことが当たり前でしたが、蛍光材料を塗りこんだIP（イメージングプレート）を使用し、レーザー光で情報を読み込んで画像化するCR装置が世に出始めたころでした。
現在では、20年前からさらに進んで、画像情報はフィルムに焼き付けて手にとれるような形のあるものでなくなり、信号として情報を各パソコン端末で閲覧するものとなりました。
技師学校を卒業後、県内施設の装置の設置状況を聞いていると、どこもかしこもデジタル機器に変更になり、当時勤務していた施設もデジタル装置に変更され現像液・定着液の匂いと、現像機掃除を味わうことは今後ないと思っていました。
前施設で10年勤務後、ヴォーリズ記念病院に勤務すると現像機が現役で稼働しており、撮影装置も学生の時に実験で

使用していた単相の装置、ポータブル装置に至っては、波尾切断方式という国家試験の内容から削除されていそうな装置があり、X線装置の博物館をイメージする雰囲気でした。

ヴォーリズに来て10年の間に医療の状況が変わり、それに応じて病院の立ち位置も明確なものとなり、紐づいて放射線科の内容も大きく変わりました。
装置は一掃され、デジタル機器の導入により手元で画像・所見の閲覧や遠隔によるレポート記入が可能となり、10年前には考えられない状態になりました。
ことわざの「温故知新」より、古いことから学び、新しい知識を得る。

闇雲に新しい物を欲しがらるのではなく、当院の機能と何のためにいるのかを考え、身の丈にあったことが実践できるシステムになっていると思っています。
それもこの10年間、諸先輩方から医療の知識だけでなく、ヴォーリズ記念病院の歴史や役目をご教授いただいたおかげとっております。

勤続20年を迎えて思うこと

調理師 田中 喜代司



開院95周年という栄えある式典の場で、勤続20年の表彰を受ける事ができ大変光栄に思っており、厚く御礼申し上げます。これも職場の諸先輩方や仲間の支え、皆様のご理解あっての事で只々感謝の気持ちで一杯です。

20年前、このヴォーリズ記念病院に初めて足を踏み入れ面接を受けたのがツッカーハウスの薬局跡で、ヴォーリズ先生を身近に感じることが出来る歴史ある魅力的な建物でした。

当院は自然に恵まれ、春は桜・初夏は深緑・秋は紅葉・冬は山が雪化粧をして出迎えをしてくれます。こんな素晴らしい環境の中で仕事が出来るんだと心踊らせていたのがつい昨日のようです。当時の病院食といえば“早い・冷たい・まずい”が代名詞の時代。

そんな中「ヴォーリズの看護師さんは、とても親切で優しい。食事は美味しい」という評判を入社前から耳にしていました。それ故、私は調理師として仕事をする事に誇りを持っておりました。

特に4月の観桜会は、今も強く心に残っています。桜の花が咲く頃に合わせて行われる病院の行事で、患者さんが私達の作った“お花見弁当”を片手に催し会場へと足を運ばれたものでした。満開の桜の景色の素晴らしい事、まるで別世界のようなものでした。皆が笑顔になれる特別な日とあり、弁当を作る腕にも力が入り調理師冥利に尽きました。

又私は、阪神大震災を朝食作りで追われている当院の厨房で体験しました。長時間の強い揺れを感じ、思わず床に身を伏せました。「これはただ事ではない！」と直感しましたが、何一つと破損した様子もなく、直ちに作業を再開しました。

その数時間後にテレビに映し出される被害状況に驚き、心を痛めた事を覚えています。当時の厨房は老朽化が進んでおり何事もなく食事が提供できたのは、奇跡的で「きっと神様がお守り下さったんだ」と思い、胸を撫で下ろしたものでした。

丁度この頃に、温冷配膳車が導入されました。これは食事を美味しく衛生的に提供できる温度を保つ事ができるものです。患者さんには、より一層美味しい食事を召し上がって頂けるようになったのでは、と思っております。これは画期的な事業でした。又、配膳時間も患者さんの生活により近い時間に変更されました。それから間もなくして現在の厨房に移転しました。

それから15年が経過し、その間“選択メニュー”の導入をしました。調理師が患者さんのお部屋へ伺い、料理の説明をしながら食事を選んでいただくという方法で始めました。患者さんの生の声を聞かせて頂き、その声を食事に反映させる事ができました。私達調理師が唯一、患者さんと接する機会となりました。自分達が調理した食事を召し上がっておられる様子を見て、今まで見えていなかった事・感じ取る事ができなかった事を知るという貴重な経験をすることができました。その結果、「思いやり」の精神を強く持ち調理するよう心がけております。

冒頭にも記しましたが、“早い・冷たい・まずい”はこれで随分、解消されたのではないのでしょうか？またお聞かせ下さい。

今後、病院はもとより、老健センターとの関わりを保ちながら当院の理念を念頭に置き日々、努力を惜しまず邁進して参ります。

また、ボランティアの方々のご奉仕に対する感謝と表彰も同時に行いました。ありがとうございます。（敬称略）

| | | | | | | | |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 2,000時間 | 佐藤小百合 | 500時間 | 荒川 克子 | 100時間 | 西村 玲子 | 100時間 | 川上富美子 |
| 1,000時間 | 松永ひろみ | 300時間 | 吉田 徹 | | 高橋 和子 | | 大西 久子 |
| 500時間 | 稲毛 和子 | | 吉中 一朗 | | 河合 直子 | | |
| | 中井美佐枝 | | 高田 裕子 | | 北川佳代子 | | |



ヘルシークッキング 7月

ひつまぶし

エネルギー 669kcal タンパク質 34.0g 脂質 27.1g (1人分)



<材料 2人分>

・うなぎのかば焼き 1尾
・米飯 400g
・付属のタレ 2袋

[薬味]

・刻みのり 少々(お好みで)
・小口切りにしたネギ 少々(お好みで)
・わさび 少々(お好みで)

[ダシ]

・水 1L
・昆布 5g
・鰹節 50g
・塩 小さじ1g
・薄口醤油 小さじ2杯

作り方

- ① うなぎを1cm幅に切って米飯の上のせて蒸らす。
- ② ①の米飯にタレをかける。
- ③ 水1Lに昆布を入れ、沸騰したら取り除き、鰹節を入れ10〜20秒程で火を止めてアクを取り5分程おく。
- ④ ③のダシを濾してから塩と薄口醤油を加える。

<ひつまぶしの食べ方>

- [1杯目] そのまま頂きます。
[2杯目] 薬味を乗せて頂きます。
[3杯目] ダシ汁+わさびをかけて頂きます。

名古屋名物「ひつまぶし」。今や全国で知られている名物ですね。ひつまぶしと言えば「うなぎ」ですがうなぎは夏の栄養補給源として有名ですね。特に夏の土用の丑の日には暑い時期を乗り切るためにうなぎを食べる風習もあります。この風習の由来は諸説ありますが、平賀源内が発案したという説を紹介しましょう。

商売がうまくいかないうなぎ屋が相談したところ、平賀源内は「丑の日に『う』の字が付くものを食べると夏負けしない」という民間伝承からヒントを得て、うなぎ屋の店頭に「本日、土用の丑の日」と貼り出すことを提案したそうです。すると、博学な源内の言うことなら間違いないとうなぎ屋

は大繁盛し、これがきっかけとなり、土用の丑の日にうなぎを食べるようになったそうです。

こんなうなぎですが、栄養面でも暑い夏には最適な食べ物です。うなぎには糖質の代謝を助けて疲労物質を取り除くビタミンB1を始め、脂質やタンパク質に変えるビタミンB2、B6もしっかり含まれています。また、良質なタンパク質やミネラルも豊富に含まれており、夏バテで栄養が少なくなっている体には最適な食べ物です。

今年の土用の丑の日は7/22(月)です。暑い夏を乗り切るためにもうなぎを食べてみては如何でしょうか？

報告1

生と死を考える会・淡海 総会

5月17日(金) 13時30分よりヴォーリズ記念病院研修室で『生と死を考える会・淡海』の第12回総会と講演会が開催されました。総会では前年度の活動報告、会計報告が行われ、承認されました。この活動も12年を迎え、安定した活動とはなっていますが、もっと視野を広げるべく今年度は滋賀県だけにこだわらずに各地(近畿、全国規模)で展開されている「生と死を考える会全国協議会」への加盟を行い、情報収集することとなりました。



2部の講演会はヴォーリズ記念病院の緩和ケア認定看護師の谷川弘子さんより「旅立ちのおもてなし」と題して主に「エンゼルケア」(「死後の処理」と表現されていた時期もあったようです)についてホスピスでなされているケアについてのお話を聴きました。

「エンゼルケア」とは①エンゼルメイク、②エンゼルメイク身体の整え、③グリーンケアに分かれるようですが、これらをご家族関係者の方々と一緒に行うことでトータル的な「患者さんや家族、関係者へのケア」に繋がることを学ぶことができました。

『綺麗やろ、ほら見て、見て…。日本一や俺の奥さん。惚れ直したわ』『お母さんの身体だんだん冷たくなっていく。死ぬってこういうことなんだ。でも私の中でしっかり生きつつける』…。ご家族の言葉を紹介される谷川さんの優しさのにじみ出るお話に集まった私たちは人生の豊かさを感じ、ヴォーリズ記念病院の医療、看護、介護の質を確認できるひと時でありました。

「生と死を考える会・淡海」では今年度も幾つかの企画を予定し、ご案内いたします。みなさん是非ご参加ください。

報告2 新入職員歓迎会を終えて

職員会会長 戸 蔭 健 治

2013年度 職員会主催 新入職員歓迎会を5月24日(金)にウォーターハウスを会場に行わせていただきました。

歴史あるヴォーリズ建築での歓迎会でありましたが、新入職員を迎えて35名の参加をいただき、アットホームな雰囲気の中で、共に楽しい時を刻むことが出来ましたことは、とても有意義であったと感じております。

今年度は、まだ幾つかの行事を予定しておりますので、多くの参加をお待ちしております。

また、皆様からの貴重なご意見を合わせてお待ちしておりますのでお寄せ下さい。

今後とも職員会の活動にご理解とご協力をいただきます様、よろしくお願い申し上げます。



報告3 新棟(リハビリ・在宅部門・託児所)起工式

6月11日(火)午前10時より新棟(リハビリ・在宅部門・託児所)の起工式が執り行われました。当日は理事、評議員、関係各部長が一同に集まり式に参加しました。

第一部の礼拝は安部チャプレンの司式のもと、ヴォーリズ精神に基づく事業展開の一環としての新棟の意味合いについてメッセージをいただき、来年2月末までの工期中の安全を祈念してともに心をひとつにしました。

第二部の起工式では、苅初(かりぞめ)を設計担当の株式会社一粒社ヴォーリズ建築事務所代表取締役所長 田中健一様、穿初(うがちぞめ)及び鎮物埋納(聖書)を当法人理事長 周防正史・副理事長 澤谷久枝、鎮定(ちんてい)は施工くださる株式会社桑原組代表取締役社長 桑原勝良様がお務めくださり、滞りなく行うことができました。

当法人は昨年4月に公益財団法人として認可されましたが、まさに「公益」としての新棟起工式であることを痛感するひと時でありました。

多くの方々、そして神様に祝福されての起工式。完成までの期間が事故無く安全に守られ完成後は地域の医療・看護・介護に貢献できる器として用いられることを切に願っています。

工事中は何かとご不便をお掛けすることもあるかと思いますが、何とぞご理解とご協力のほどをお願い致します。



報告4 ボランティアの集い

さる6月1日、病院および老健センターのボランティアとして活動している皆さんの「ボランティアの集い」を開催いたしました。

例年春と秋の2回実施していましたが、今年から年1回の開催となります。集いではボランティア世話人の吉田さんの司会で日頃出会うことのないそれぞれの活動の皆さんと交流を目的に楽しい一時を過ごしました。

始めに病院の開設記念日に表彰を受けられた勤続100時間から1000時間のボランティアの皆さんへのお祝いをいたしました。そして長くボランティア活動を続けられた思いなどを披露いただきました。

その後、交流の時として一緒に歌や楽器の演奏、そしてフォークダンスを皆さんで踊りました。また日頃目にする事のないハーブの演奏やヴォーリズクイズと題して知られていないヴォーリズさんのエピソードなども披露して頂き楽しい一時でした。ボランティアの皆さんの活動が「里」の働きをいきいきと支えてくださっていることを心から感謝いたします。



みなさんでフォークダンス！

報告5 第202回 ミュージックタイム

5月25日、「第202回 ミュージックタイム」を3病棟で開催いたしました。

今回は坂井孝之さん、小百合さんご夫妻のフルートの演奏を中心に楽しみました。お二人は毎年訪問して下さり、楽しい一時を提供して下さいます。懐かしい曲、讃美歌など思い出が蘇った方もおられたかもしれません。



働く仲間を募集しています！

★看護師・訪問看護師
介護福祉士

“ケアの喜びを
一緒に感じ
ませんか。”



詳細はお問い合わせ下さい。
TEL 0748-32-5211
(担当：澤谷)

【新規採用】

7月1日 徳岡 貴美 (診療技術部)
7月1日 辻村 明美 (看護部)



お知らせ

▶ 糖尿病及び生活習慣病教室のお知らせ

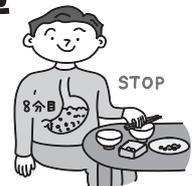
シリーズで月に一度、木曜日に糖尿病、生活習慣病に関して、実際の食事をご用意し、病気の知識や治療法に関する教室を開きます。詳しくは管理栄養士か外来看護師あるいは担当医師にお聞きください。

日 時 7月25日(木)12:00~13:30

場 所 新館研修室(病院内)

講 師 医師

主治医の指示のもとに参加できますが、あらかじめお申し込みが必要です。



近江八幡市介護予防拠点事業

ヴォーリズ介護予防教室のご案内(平成25年度前期)

| 回 | 日 程 | 内 容 | 担 当 ・ 講 師 |
|---|-------------------------|-------------------|-------------------------|
| 2 | 7月25日(木) 14:00~16:00 | 「老いと嚥下能力 PART I」 | ヴォーリズ記念病院 言語聴覚士 甲斐 始 |
| 3 | 9月26日(木) 14:00~16:00 | 「折り紙を楽しもう PART V」 | ヴォーリズ老健センター 施設長 鈴木輝康 |

- ①対象者 おおむね65歳以上の方 定員:30名
- ②場 所 アンドリュース記念館(旧YMCA会館)
近江八幡市為心町中31番地(近江八幡教会の隣)
- ③参加費 無料
- ④申し込み 7月23日(火)までに往復ハガキで
①住所 ②氏名 ③年齢 ④連絡先電話を記入の上、
下記の係りまでお申し込み下さい。
〒523-0806 近江八幡市北之庄町492
ヴォーリズ記念病院内 介護予防教室 係 まで
単月の申し込みも受け付けます。
(申し込み締め切り 2回目7/23、3回目9/24)
お問い合わせは、ヴォーリズ記念病院内
ホームヘルパーステーション 担当 生駒
(Tel 32-7130 Fax 36-5458)まで

メディカルフィットネスセンター

会員募集

あなたの健康づくりをサポート

安心して楽しく運動して頂けるよう、
からだの状態を評価し、お一人お一人の
運動メニューを提供致します。

受付時間 9:30~17:00
利用時間
月・水・木・土/ 9:30~17:00
火・金/ 9:30~20:00

定休日 日曜日・その他(年末年始など)

近江八幡市鷹飼町571
平和堂近江八幡店5階内
TEL 0748-32-5540

地域連携課

介護・入院・施設の入所等で、
お困りのことがあり
ましたら、お気軽に
お越しください。
正面玄関入って
左側です。



“患者サポート支援窓口”の設置

外来診療・入院生活、治
療等についてお困りのこと
がございましたら
患者サポート支援窓口
(担当 塚本・岡田・加藤)
までご連絡下さい。